

議事要旨	会議名：北九州ESD協議会・令和3年度第1回運営委員会		
日時	令和3年5月19日（水）18:00～19:30	会場	オンライン（まなびとESDステーション）
配布物	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業報告（案） ・令和2年度決算（案） ・令和3年度事業計画（案） ・令和3年度予算（案） ・グリーンギフト地球元気プログラム特別会計（案） ・令和3年度 役員一覧（案） ・令和3年度 運営委員一覧（案） ・「市民センター等活動助成事業」審査結果（平均点一覧） ・北九州ESD協議会プロジェクト事業について（案） ・北九州ESD協議会チーム活動推進事業について（案） ・北九州ESD協議会会員の国内会議及び他都市への視察等移動の旅費について（案） ・オンライン講演会「悲鳴をあげている地球環境」チラシ ・（ユース向け）「環境先進企業見学ツアー」チラシ 		
出席者	所属 北九州ESD協議会運営委員会	氏名（敬称略） 日高京子・坂元光男・渡辺いづみ・原水敦・三宅博之・ 上永陽一・服部祐充子・原賀いずみ・江藤直子・佐藤信幸・ 岩谷かおり 北九州市：稲田佳代子・安田絵里 事務局：高橋誠一・山中美鈴 オブザーバー：下田泰奈・川島伸治	
要旨	【議題】 1 総会関連事項 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業報告（案）について ・令和2年度決算（案）について ・令和3年度事業計画（案）について ・令和3年度予算（案）について ・グリーンギフト地球元気プログラム特別会計（案）について ・役員人事（案）について 2 「市民センター等活動助成事業」の助成団体決定について 3 プロジェクト事業（案）及びチーム活動推進事業（案）について 4 新規会員入会について 【報告】 1 各プロジェクト報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダー活動推進プロジェクト ・ブランディングプロジェクト 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成・発掘プロジェクト ・調査研究・国際プロジェクト ・イベントプロジェクト <p>2 事務局報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言に伴う「まなびと ESD ステーション」開館について ・その他
<p>議題 1</p>	<p>■ 総会関連事項について</p> <p>委員長：それでは、議事に入る。</p> <p>事務局から、総会関連事項について説明いただく。</p> <p>事務局：事前に、資料は送付して読んでいただいていると思うので、要点のみを簡潔に説明する。</p> <p>まず、令和 2 年度事業報告（案）について、22 ページの ESD—J 理事会と、RCE スリナガル WEB 会議を追加する。また、去年は、コロナの影響で事業が出来ないことも多かったが、オンライン講演会等工夫して事業を実施した。</p> <p>次に、令和 2 年度決算（案）について、収入は、ほぼ予算額通り 2,296 万円。支出は、コロナ禍の影響で事業実施が出来なかった関係で、事業費で予算額 326 万円に対して、実績は 220 万円と 106 万円の減。運営管理費では、予算額 1,903 万円に対して、実績は 1,761 万円。142 万円の減。全体では、予算額 2,229 万円。実績額 1,982 万円。市への戻入額が 167 万円。翌年後繰越金が 80 万円となっている。</p> <p>令和 3 年度の事業計画（案）について、調査研究・国際プロジェクトに新規事業として、「北九州 ESD 活動調査」「ユースカフェ」を実施する。また、継続事業の中に、幼稚園、保育所、小・中学校の保護者を対象の家庭教育学級への出前講座を新規に実施する。</p> <p>また、アクションプラン 2021-2025 が総会で可決後には、会員自らが新たに組みたい課題解決に向けて、賛同する仲間を募り、活動団体（チーム）を結成して新しい協働のもと活動するチーム制や、開かれた推進体制の構築という観点から運営委員会の在り方を検討する。また、同時に拠点の在り方も検討する。</p> <p>次に、令和 3 年度予算（案）について、収入は、北九州市の負担金が 6%のシーリングがかかり、120 万円減額となっている。一方、グリーンギフト特別会計から、人件費等への充当として 40 万円入金となる。収入合計では、昨年より 80 万円減の 2,150 万円。支出では、アクションプラン策定経費、SDGs 未来都市アワードの経費は減額となっているが、ESD 出前講座、ユース活動経費、情報発信事業経費は増額としている。運営管理費では、予備費を、「チーム制」に備えて 50 万円に増額計上した。</p> <p>グリーンギフト特別会計は、去年はコロナの影響で事業実施が出来なかった。したがって、翌年度に 55 万円繰り越した。また、協議会へ事務局員人件費等で 40 万円繰り入れた。</p> <p>役員人事（案）は、4 月 1 日の人事異動に伴い、充て職として、高橋副代表（教育</p>

議題 2	<p>委員会学校教育部長)、中島副代表(環境局総務政策部長)、坂元運営委員(環境局環境学習課長)、江藤運営委員(教育委員会指導主事)が新たに就任した。また、調査研究・国際プロジェクトリーダーの変更により、川島さんが新たな運営委員に就任した。また、前調査研究・国際プロジェクトリーダーの三宅運営委員は、ESD-Jの理事でもあり、引き続き運営委員として留任していただきたい。</p> <p>委員長：質問や意見をいただきたい。</p> <p>委員：SDGs 未来都市アワードの予算が、50万円から半額の25万円になっている。昨年度の実績が31万円であり、どうして25万円になったのか説明して欲しい。</p> <p>事務局：SDGs 未来都市アワードは、北九州市のSDGs推進室と共催事業として実施している。昨年度は、応募のあった学校へ参加賞(テイタン人形)を配付したことで決算額が31万(令和元年度は24万円)となった。今年度は、25万円で収まると考えている。</p> <p>委員：ブランディングプロジェクトの未来パレットの予算が24万円から、36万円に増えているのは、学生新聞が2ページ増加となるのが原因か。</p> <p>事務局：今年度発行の30号、31号とも学生新聞を2ページ追加する予定である。それに伴って、予算額を増額計上した。</p> <p>委員：全体事業の中で、新規に会議費として3万円計上しているが。</p> <p>事務局：運営委員の方が運営委員会に出席する時の交通費である。</p> <p>委員長：議題1の総会関連議案は承認とする。</p> <p>委員長：「市民センター等活動助成事業の助成団体決定について」事務局に説明いただく。</p> <p>事務局：「市民センター等活動助成事業」は、当初6団体から申請があった。しかし、「筒井ESD実行委員会“シニア学びの会”」から申請取り下げがあり、5団体の申請である。運営委員の方に審査をしていただいた結果をまとめたのが「市民センター等活動助成事業」審査結果(平均点一覧)である。総合評価(合計点)が、全ての団体が13点以上であり、過去の例でも、合計点が13点以上はすべて助成しているので、この活動を発展させ、更に広げていくためにも、事務局としてすべての団体に助成したい。</p> <p>委員：助成金をやる以上は、きちんとした成果を報告書に残していかななくてはいけないと思うがどうか。</p> <p>事務局：事業終了後は、全ての助成団体から報告書を提出していただいている。また、助成金の使途がわかる領収書の添付も義務付けている。</p> <p>委員：非常に良い取り組みを行っているので、活動内容を知っていただくためにも、報告書をホームページ等にアップしたらどうか。</p> <p>事務局：検討していきたい。</p> <p>委員長：議題2の「市民センター等活動助成事業」の助成は、申請のあった5団体に助成することに決定する。</p>
------	--

<p>議題 3</p>	<p>委員長：議題3の「プロジェクト事業（案）及びチーム活動推進事業（案）について」事務局に説明いただく。</p> <p>事務局：「北九州 ESD 協議会プロジェクト事業について（案）」北九州 ESD 協議会チーム活動推進事業について（案）」「北九州 ESD 協議会会員の国内会議及び他都市への視察等移動の旅費について（案）」を資料に基づき説明。</p> <p>委員：プロジェクト事業の果たしてきた役割は非常に大きい。ESD 協議会の柱になるような事業を代行して行ってきたのがプロジェクト事業である。それを市民センター事業やチーム制と一緒に考えるのは言語道断である。ESD 協議会の柱となるような事業を行ってきたのがプロジェクトであり、それを市民センター事業と一緒に考えるなんてありえない。</p> <p>委員：プロジェクト事業を、申請し、役員会で審査をして決定する。となっているが、審査という言葉も引かかる。今までプロジェクト事業の行ってきた役割を考えると、もう少しみんなで検討が必要であると考えます。</p> <p>事務局：プロジェクト事業をなくすという提案ではない。プロジェクト事業がマンネリ化している部分もあり、プロジェクト事業とは何であるかを今一度みんなで考え、全体事業としてみんなで取り組んで、もっと広めていく。又は、今のままのプロジェクト活動を継続してもよい。また、チーム制へ移行してもよい。臨機応変に、柔軟に対応しましょうという事である。</p> <p>事務局：アクションプランの中でも、組織・運営体制について考えていくことになっており、このプロジェクト事業についても同様に内容を精査し、今後検討していくことでしょうか。</p> <p>委員長：チーム活動推進事業及び協議会会員の国内会議及び他都市への視察等移動の旅費については承認し、プロジェクト事業については、今回は取り下げ、再度みんなで内容を精査して検討することにする。</p> <p>委員：チーム活動推進事業について2つ質問。</p> <p>1つは、審査会に事務局も構成メンバーに入っている。事務局が審査会の構成員なることはおかしい。</p> <p>2つ目は、申請出来る対象として、個人会員、団体会員となっているが、個人会員は、協議会の資金集め（年会費徴収）のために作った会員で、総会の議決権もない。そのような会員にも申請権を与えるのか。</p> <p>事務局：チーム活動推進事業は、申請した団体（個人）には、全て承認し活用してもらいたい。しかし、申請内容や支出計画書との不備等を審査するうえで、審査会に事務局が入っていた場合の方がスムーズに進むという観点から事務局を入れている。次に、チーム活動推進事業は、ESD 活動を広める、伝えていくために多くの会員に活用していただきたい。その観点からも個人会員は申請出来ないのではなく、全ても会員に申請できるようにしたい。</p> <p>委員：事務局は、公正を帰すためには、事務局はあくまで事務を行うべきで、審査会には入るべきでない。</p>
-------------	--

<p>議題 4</p>	<p>委員長：審査会は、事務局は外れる。申請は、全ての会員が出来ることに決定する。</p> <p>■新規会員入会について</p> <p>事務局：個人会員の入会として、2名申込みがあった。 2名とも、北九州市立大学の先生です。</p> <p>委員長：北九州市立大学の先生で ESD、SDGs に非常に興味をもっておられ、非情に積極的な方なので、ESD協議会にも貢献していただけると思う。新規入会は承認とする。</p> <p>【各プロジェクト報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ステークホルダー ●ブランディングプロジェクト ●人材育成・発掘プロジェクト ●調査研究・国際プロジェクト ●イベントプロジェクト <p>【事務局からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オンライン講演会について <ul style="list-style-type: none"> 6月16日（水） 「悲鳴をあげている地球環境」 講師：金子良憲 氏 ●環境先進企業見学ツアー <ul style="list-style-type: none"> 6月18日（金）
<p>令和3年度 第2回運営委員会</p>	<p>令和3年7月28日（水）18:00～19:30</p>
<p>開催予定日</p>	<p>オンライン or 北九州まなびと ESD ステーション</p>